

本園は、本主題に継続して取り組んで得た発見や課題を手掛かりにし、「自然が与えてくれる感動をもっと身近に」をテーマに、園の自然環境や語り合う環境を工夫して取り組まれました。身近な生き物へ好奇心や疑問をもつ子どもたちが、探究を深め変容するプロセスや、同じ思いで関わる子ども同士や保育者との対話の積み重ねには往還的な学びがあり、「科学する心」が育まれています。

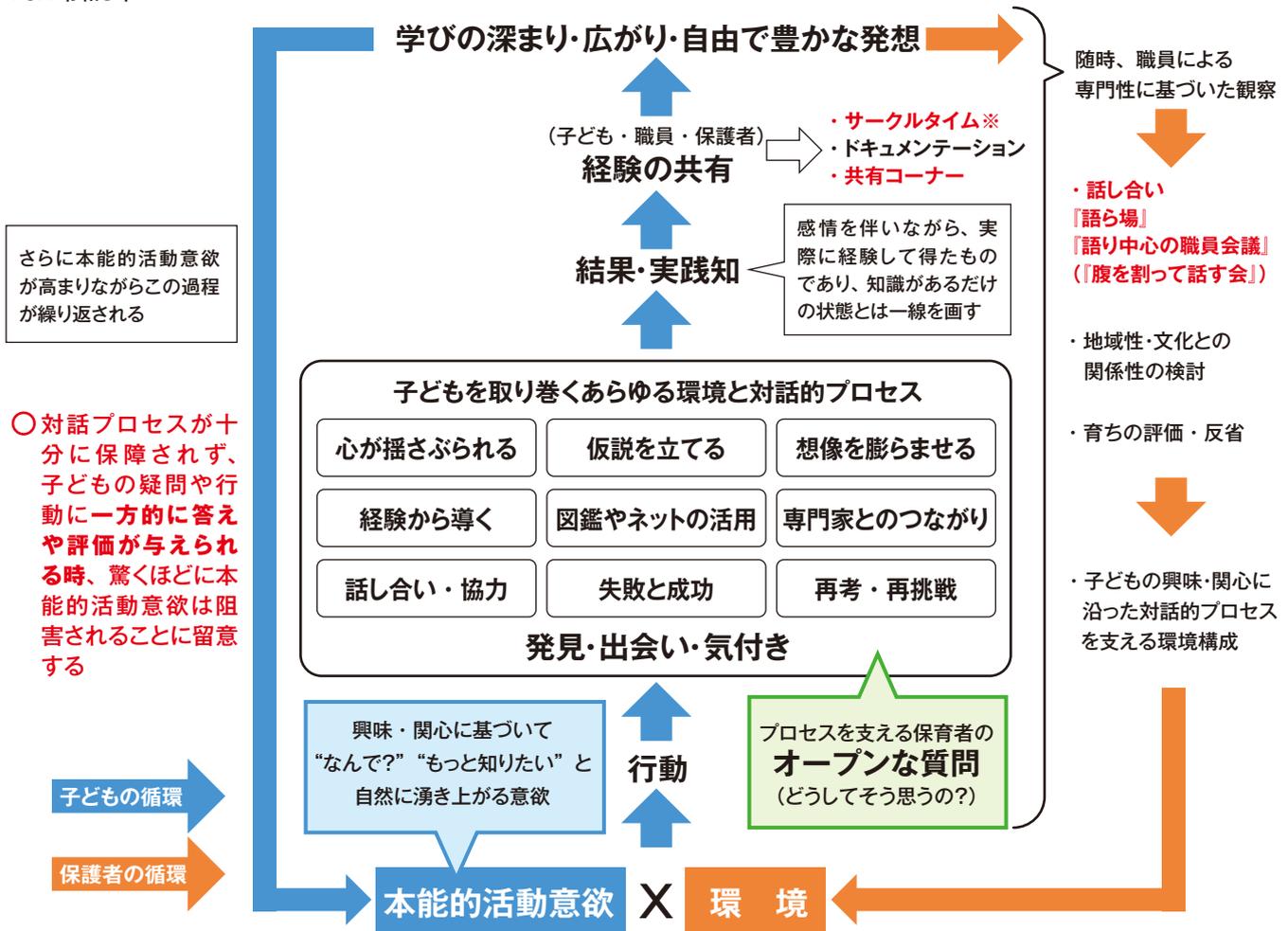
自然が与えてくれる感動をもっと身近に ～語り合う中で繋がり、広がる世界～

方向性

自然から与えられる発見・感動・教訓の大きさは計り知れず、遊びの中で学ぶときに自然との関わりは欠かせないことが分かった。そこで、豊かな環境の中で小さな発見にも共感的まなざしをもち、感動を分かち合えるように持続可能な魅力的な環境をつくり、日々過ごす園の環境で季節の移り変わりを感じ、様々な生き物との出会いに感動できる保育を実践する。

科学的な学びの展開図

Ver. 令和3年



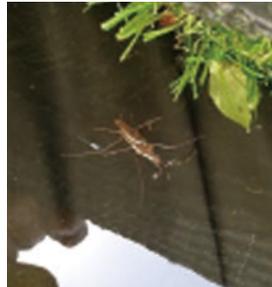
※サークルタイム：子どもたちが発見や課題を話し合う場。

## さがみ愛育会 幼保連携型認定こども園 愛の園ふちのべこども園（神奈川県）

## 環境の工夫

## 園で様々な生き物と触れられる池作り

「子どもたちが安全かつ自由に生き物と触れ合うことができ、生き物たちの住処を壊すことがない蓋」の枠の強度や、頭や胴は入らない網や水中に注目できる色を考え、池を制作した。



## 子どもの姿

## アメンボと出会い、生き物への理解が深まり、感動や愛しさに気付く

- 園庭の池でアメンボと出会い驚き、観察する。（公園で見つけても、他の虫ほど関心は向かなかった）
- 身近な存在である蚊と比較して、アメンボの生態を推測したり、継続して観察したりする。
  - アメンボはボウフラにならず小さいアメンボとして生まれてくることを知る。
  - ずっと待っていた“生まれたばかりのアメンボ”に会うことができその可愛さに心動かされる。

## 保育者の語り合う環境の工夫

## 自分の意見を発信し、相手の思いを知るために安心して語り合える場作り

- ① 『語り場』：週1回、学年や領域や経験年数を問わず参加でき、若手の職員が躊躇なく発言できる小さな集団で、保育から趣味まで自由に話せる場をつくる。趣味が保育に活かされたり、共有された課題をもったりして、チームを作って動く流れも生まれた。
  - ② 全体会議は“報告中心”から“話し合い中心”へ：会議では、保育エピソードから話し合い、今後の展開を考える時間をもつ。研修は報告のみに留まらず、グループで保育に活かすか話し合いをする。
- ☆ 『腹を割って話す会』の発足：①と②の取り組みを機に、職員の中で“語り合うことで保育はよくなる”という実感が生まれ、話し足りない職員が、自主勉強会『腹を割って話す会』をもつ。主に子育てや家事が一段落した時間を利用。連絡アプリや ZOOM を使用して書籍の内容を共有したり、保育について“思ったことを思ったときに”語り合う。

## 保育者の姿

## 子どもの姿や自分の考えを語り合う中で新しいアイデアが生まれた

今まで慣習として行ってきたことや疑問に思っていたことの意味を問い直し、現在の状況にあったものへと変化させていくことができた。